



パワーショベルの体験乗車

子どもたちが寄せた質問に丁寧に答えた。

石井国交相は、「大臣が心掛けていることは」との問いに「全国の現場の皆さんを大切にすること」と応じ、子どものころに「考古学者になりたかった」ことも披露した。

各種体験プログラムでは、戸田建設が提供したパワーショベルの体験乗車や大工、庭師、アンカー職人の仕事体験なども行われている。免震体験車に乗車して、免震効果を体感できる機会も提供。全国の各ダムで配布されている「ダムカード」も紹介されている。

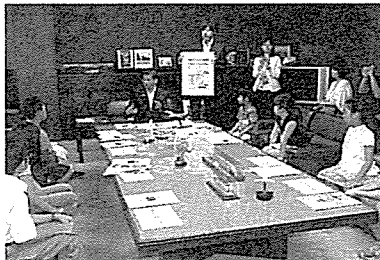
重機試乗など仕事体験も

こども霞が関見学デー 石井国交相と話そう

東京・霞が関にある国の省庁で毎年恒例となっている夏休みのイベント「こども霞が関見学デー」が今年も2、3日の日程で行われており、各省庁が工夫を凝らしてさまざまな仕事を紹介している。国土交通省は建設をはじめ同省関連の仕事を体験できるプログラムを提供。子どもたちの思い出作りに一役買っている。石井啓一国交相も「国土交通大臣とおはなししよう」と題したプログラムで子どもたちと触れ合った。

石井国交相と「おはなし」したのは、小学校1年生から中学

子どもたちの質問に丁寧に応じる石井国交相



校1年生までの男女計8人。「災害が起きたらまず何をするのか」「大臣としての喜びは」「将来ダムで働くには、今何をしておいたらよいのか」「圏央道の開通で何を期待する」など、



多数の親子連れが訪れ、ア
・霞が関の各省庁で開かれ
ている「こども霞が関見学
デー」で、国土交通省の10
階共用大会議室の会場にブ
ースを出している。写真。

こども霞が関見学デーにブース出展

アンカー協会

日本アンカー協会（中原

巖会長）は、3日まで東京

ンカー工事の現場写真を展示した体験コーナーで記念撮影をしたり、アンカー工事が完成した斜面に貼り付ける花飾りをつくったりして催しを楽しんだ。

アンカー工事は、大きな金属のケーブルを斜面に差し込んで、崖崩れや地滑りを防ぐ工事。一般市民が工事の状況を目にすることは少ないため、アンカーの仕事みや役割などを広く子どもたちに知ってもらえればと、同協会は3年前からこども霞が関見学デーにブースを出している。

武山光成専務理事事務局長は「子どもがアンカーの仕事みを理解するのは難しいと思うが、アンカーというフレーズだけでも覚えてもらえればうれしい」と話している。